

上東っ子を **ガンガン** 伸ばす 家庭の時間を応援する

上島東小学校 教務部

令和3年7月20日発行

家庭学習応援だより

夏休み直前号

各学年より夏休みのしおりは配られたでしょうか。宿題に関心が集まるとは思いますが、夏休みは事故の危険性が高くなる期間でもあります。学校は、生活や保健も学習と同様に気をつけてほしいと考えています。しおりをよくお読みください。

さて、来週から夏休みが始まります。子供たちは、例年通り約40日間の夏休みが来るのを楽しみにしているようです。子供たちなりに夏休みにやりたいこと、チャレンジしたいことがたくさんあるのだと思います。今年は夏休み中に地域の行事や家族の行事もあるようで、「先生、夏休みは子供会でバーベキューをやります。」「夏休みに、おじいちゃんとおばあちゃんの家に行ってきます。」などと教えてくれました。

今号では、夏休みを直前に控え、子供たちが家庭で過ごす時間をどのように充実させたらよいかをお家の方と一緒に考えてみたいと思います。

コミュニケーションボード



今号は、各担任から1学期の学習の様子と宿題や家庭での学習の記事の続編です。前号で登場しなかった担任にも話を聞いてみました。

河野教諭(第2学年担任)

1学期の学習の様子は、漢字の学習に対して意欲的に取り組んでいるので、成果が上がってきた児童が増えてきているように思います。授業中の子供たちは、意見を発表したり、端末を使って発表したりしようという意欲が高まっています。ただ、学習用具がそろわないことがあり、お家の方がフォローしてくれるとよいです。

宿題は、全体的にはよくやってきているのですが、わからないところを空欄のまま提出してくる児童がいるので、低学年のうち、お家の方が宿題に目を通したり、近くで見守ったりするなどしてくれるといいなと感じます。

佐野教諭(第4学年担任)

授業の中で1人1台端末を活用した学習を実施していますが、子供たちは楽しんで学習に取り組むことができています。また、友達と協働的に学習できる雰囲気ができつつあります。ただ、課題を早く仕上げることに気をとられてしまうことがあり、内容の吟味や文章の推敲を丁寧にできるようになるとさらに良いと思います。

宿題は、決して多くはない量だと思うのですが、期日までに提出できないことがあるのが残念です。まだ家庭学習が習慣化していないのかなと思います。夏休みに、毎日コツコツと何かしらの学習をする習慣を身に付けてほしいと思います。

金澤教諭(第5学年担任)

学校での学習では、全体的に算数が苦手になりつつあるのが気になっています。特に、小数のわり算では小数点の位置の間違が多いです。また国語は、家庭で音読をしている児童としていない児童では、学習の定着に差が見られます。月例テストに対しては、とても意欲的に取り組んでいるので、2学期も頑張ってもらいたいです。

家庭学習でも、取組に差が見られます。夏休みにも宿題は出しますが、それ以外の学習にも取り組んでほしいと思います。例えば、苦手な科目に挑戦して、できなかったことをできるようにし、自信をつけてほしいと考えています。

今やっておきたい家庭学習



こう銘打っておきながら、たいしたことは述べていません。夏休みは、普通の学校がある日とは異なり、子供の興味や特性に合わせた学びや、学校では味わえない体験的な学びがたくさんできる機会だということです。

では、時間に余裕がある夏休みにしかできない、または今やっておきたい家庭学習とは、どんなものでしょう。主な教科別に家庭学習のコツをまとめてみました。学年を問わず、実践できそうなものからお試してください。

算数

- 数の概念は買い物で楽しく学ぼう！
- 数を使うゲーム(トランプなど)で計算力アップ
- 文章問題は場面や状況のイメージが大事



国語

- 本をたくさん読む環境をつくろう
- 辞書は、最初に親が調べてあげる
- 親子の会話で「論理的思考力」がアップ



理科

- いろいろな場所で観察や実験につながる経験をたくさん積もう
- リモコンの電池交換も理科の予習になる
- 親も一緒に楽しむ姿勢が大事



社会

- 新聞やテレビの資料(グラフなど)の読み取り方をしっかり覚えるとだんぜん有利
- 歴史はドラマなどの番組を手がかりに
- 調べることを遊びにしよう

心に残る読書を

読書は子供の想像力を刺激し、心を豊かに育んでくれます。思わず夢中になって読み進めるストーリー、科学への興味をかき立ててくれる本、生きる勇気が湧いてくる物語、気持ちを温めてくれるお話など、ここでは心の栄養となる良書を紹介합니다。読書感想文のための選書に悩んでいたら、参考にしてみてください。

◇ 低学年は、ストーリーがわかりやすく、感情移入しやすい、短めのお話がおすすめ。

○「いとしのリトルブルー」 松園直美／作 伊藤正道／絵 主婦の友社

主人公は、小さくて歌も苦手な小鳥のリトルブルー。しかし、お母さんはわが子を信じて見守ります。「いつも明るく、自分の信じる道を進もう」というメッセージが伝わるお話。

○「ひみつのフライパン」 寺村輝夫／作 和歌山静子／絵 理論社

お家の方も読んだことがあるのでは？世代を超えて愛される王さまシリーズ。親子で楽しみたい一冊。

◇ 中学年は、言葉の力がつき、想像力が伸びる時期。長めの文章にチャレンジ！

○「山猫たんけん隊」 松岡達英／作 偕成社

沖縄・西表島の手つかずの自然の中で冒険する子供たちを生き生きと描いた本。キャンプの注意事項や備品、食事のメニューなど、野外生活の知恵もいっぱい詰まっています。キャンプ好きな親子にぴったりの一冊。

○「いえででんしゃはこしょうちゅう？」 あさのあつこ／作 佐藤真紀子／絵 新日本出版社

家出した子が乗れる「いえででんしゃ」をめぐるお話。ファンタジックで楽しく読めるだけでなく、環境問題や戦争など、じっくり考えたい話題も。奥深い児童文学です。

◇ 高学年は、様々なジャンルに触れたい、好きな分野を読みたい、と読書のスタイルがはっきりしてきます。

○「下町のネコ キティ」 アーネスト・T・シートン／文・絵 今泉吉晴／訳・解説 童心社

ニューヨークの下町で、4回の人生をネコらしく生きたキティの物語。キティは、自由を求めて脱出するが、

○「流れ星キャンプ」 嘉成春香／作 宮尾和孝／絵 あかね書房

普段の忙しい暮らしの中で、忘れがちな大切なものに気付かせてくれる、親子で感想を話し合いたい本。

おわりに

夏休みに4～6年生の児童は、ご自宅にタブレット PC を持ち帰り、各担任から配信された課題に取り組むことになっています。先日配付された「タブレット PC の持ち帰りについてのお知らせ」などをよくご確認ください。